

大学の授業で使われる語彙及び表現－『銀行論』

中村 純子

Vocabulary & Expressions Used in University Classes :

A Study on Banking Theory

NAKAMURA Junko

要 旨

本稿は本学の授業で使用する語彙、表現を調査し、日本語教科書作成の基礎資料とすることを目的とする。本稿は『銀行論』の教科書をとりあげ調査した結果、難易度の高い日本語能力試験(旧)の級外、1級の語彙が1 / 4も使用されていたことが分かった。また留学生にとって意味の推測が難しい多義語の助詞相当語、カタカナ語も多い。ただし教科書の性質上、説明のある語彙、表現もあり、その型を習得させれば理解力もあがると考える。

キーワード

日本語教科書作成 語彙／表現調査 『銀行論』

目 次

1. はじめに
2. 語彙、表現調査
3. 総括
4. おわりに

【参考文献】

1. はじめに

松本大学では現在8名(2011年10月現在)の留学生在籍している。そのほとんどが母国で高校教育を受けた後、日本で日本語学校を卒業し、大学に入学してきた留学生である。したがって、大学で使用される語彙、表現は留学生にとって今までの経験と全く異なる語彙、表現となる。なかでも、授業で使われる専門語ⁱ、アカデミックな表現は多くの留学生の過去の日本語環境では、ほとんど使用されなかったものであり、それらを理解することには非常に困難を伴う。

そこで、本稿は実際本学の授業においてどのような語彙、アカデミックな表現が使われているかを調査し、日本語教育の一助とすることを目的とする。さらに調査の結果を基礎資料とし、将来的には本学の留学生に必要な日本語の教科書を作成することを目的とする。

現在、松本大学松商短期大学部において、各教員によって授業に合わせた独自の教科書作成が進められている。本稿は藤波大三郎教員の『銀行論』の教科書ⁱⁱについて取り上げ、そこに使用されている語彙、表現を調査することとする。『銀行論』は専門語も多く、留学生にとって難解な授業の1つであるが、藤波教員は教科書に即した授業を行っており、したがって、教科書を理解できれば、授業全体の理解率も向上すると考える。

2. 語彙、表現調査

2-1. 資料及び調査方法

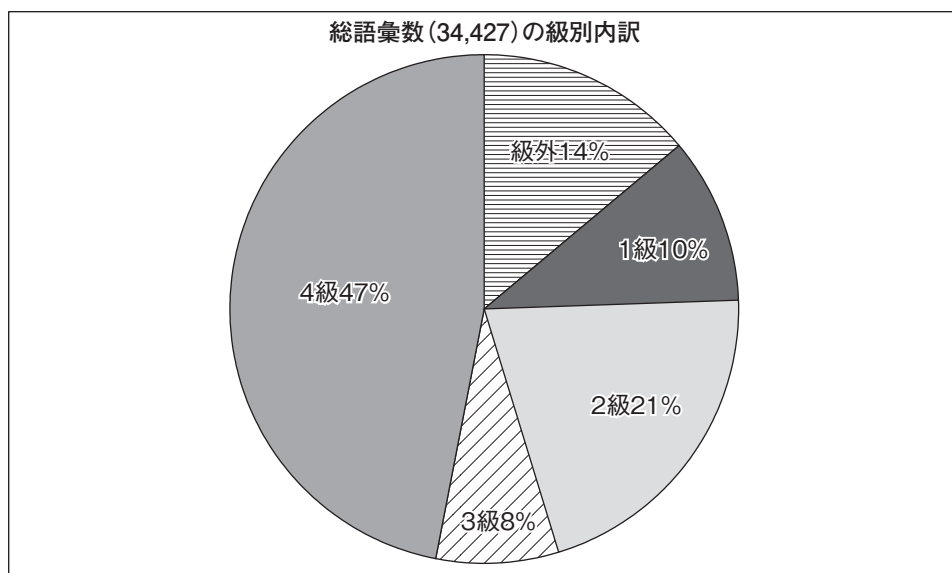
『銀行論』は以下の15章からなっている。

- 1 銀行の基本的機能、2 わが国の銀行、3預金業務、4 貸出業務、
- 5 為替業務、6 証券業務、7 国際業務、8 デリバティブ、9 証券化、
- 10 個人取引、11 法人取引、12 銀行の組織、13 銀行の経営、
- 14 銀行に対する監督と規制、15 銀行の課題と将来

藤波教員が作成した電子化されたテキストを電子辞書、reading tutorⁱⁱⁱを用いて、そこに使用されている語彙が日本語能力試験、級外から4級のどのレベルに相当するかを調査した(図1、表1参照)。通常、3、4級は初級、2級は中級、1級は上級のレベルを示す。級外は1級から4級でも扱えない専門的、非日常的な語彙が多い。次節以降、調査の結果を詳しく記していく。

2-2. 全体の調査結果

総語彙数は34,427、うち級外は14% (4,786)、1級は10% (3,597)、2級は21% (7,164)、3級は8% (2,740)、4級は47% (16,140)である。級外、1級のレベルは総語彙数で約4分の1を占めており、留学生にとっていかにこの教科書の読解が困難であるかが理解できる。章ごとの調査でも15章すべての章において、reading tutor のランク付けで最も難しい5★レベルとなった。



【図1】 総語彙数(34,427)の級別内訳

【表1】 語彙総数(34,427)の級別内訳

語彙総数	級外	1級	2級	3級	4級
34,427	4,786	3,597	7,164	2,740	16,140

図1、表1は reading tutor の語彙チェッカーより筆者が作成

2-3. 第1章調査

2-3-1. 第1章語彙レベル結果

以下、具体的に第1章を取り上げ、そこに使用されている語彙レベルの調査結果を記す。日本語能力試験・級外は「見本」、1級は「見本」、2級は「見本」、3級は「見本」、4級は「見本」と書体を変えて以下に表す。

.....
 (『銀行論』第1章より)

1. 銀行の基本的な機能

資金仲介機能

銀行の**資金仲介機能**とは、**資金**の余る者**に対して貯蓄手段を提供し**、**一方で資金**の不足する者に**資金**の供給を行う機能を言う。具体的には**預金を受け入れ**、その**預金を原資**として**資金を運用**することを指す。

銀行は、**預金者から預金を受け入れることによって**、様々な機能を**提供**している。例えば、個人や企業が自らの手で現金を**保管**するならば、**火災による焼失**や**盗難**の危険を常に**負う**ことになる。この危険を**回避**するためには、**金庫設備の設置**等の費用がかかるが、銀行は**現金を受け入れることによって**、**こうした費用を節約**するサービスを**提供**している。すなわち、現金の**保管機能の提供**である。また、**受け入れた預金に対しては**、**当座預金**と呼ばれる**手形**、**小切手の決済**のために用いられる**預金**の他には**利子**が付く。これは、銀行

が受け入れた預金を用いて貸出や債券、株式といった有価証券への投資を行い、収益を得ていることから可能となる。銀行はそうして得た収益から預金者に預金利子を提供する。預金者に有利な貯蓄手段を提供していると言える。ただし、わが国においては、1998年以降、極端な低金利政策がとられているためにこの有利性は意識されることが少ない。しかし、元本保証の預金は、物価が下落するデフレーションの状況では、依然として有利な貯蓄手段と言える。

この元本と利子が保証されるという預金の受け入れは、銀行法等により銀行等の預金取扱金融機関だけに限定されており、それ以外の者が預金を受け入れる事は禁止されている。英語でバンクと呼ばれる機関は、この預金の受け入れを行う機関を指す。保険会社や証券会社はこの預金の受け入れ機能を持っていない。

先述の通り、銀行が預金に利子を付けることが出来る理由は、受け入れた預金を貸出や有価証券に投資するからである。これによって企業、個人、そして政府、地方公共団体に対して資金を供給している。

貸出や有価証券投資は誰でも行うことが出来る。しかし、預金の受け入れと貸出を同時に行うことによって、銀行は資金仲介機能を果たしていると言える。しかし、資金を貸出によって運用するにしても、債券、株式によって運用するにしても専門的な知識と経験が必要となる。また、預金を受け入れる場合も預金者からの信頼を得る必要がある。銀行の資金仲介機能はそうした専門性と強固な財務基盤の上に行われている。

ただ、最近は銀行の企業向けの貸出は減少しており、個人への貸出と国債などの有価証券投資が増えている。これは銀行の資金仲介機能が低下していることの現れとされている。

信用創造機能

銀行は、資金が余っている黒字主体から資金が不足している赤字主体へと資金を仲介しているだけではなく、その仲介機能を通じて預金を新たに作り出している。これを信用創造という。例えば、そのプロセスの例として、次のような場合が考えられる。

まず、A銀行は、X社から預金100万円を預かる。

次に、A銀行は、100万円のうち90万円をY社に貸し出す。

そして、Y社は、Z社に対して90万円の支払いをする。

更に、Z社は、90万円をB銀行に預ける。

この結果、預金の総額は190万円となる。はじめ、100万円しかなかった預金が190万円になったのは上記2の結果として、Y社が90万円の借入を行い、返済を約束することで90万円分の貨幣が発生したことになるからである。この90万円の貨幣は預金となり、預金は通貨としても機能する。この後、B銀行が貸出を行うことで、この仕組みが順次繰り返され、預金は増加していく。このように貸出と預金を行う銀行業務により、社会に存在する預金の量は増加することになる。ここでA銀行が90万円しか貸し出さず10万円を残す理由は、預金者の現金引き出しに備えて支払準備を確保するからである。この信用創造は別の説明も出来る。銀行が貸出を行う場合は、貸出先の企業X社に現金を提供するのではなく、X社の預金口座に貸出金を入金するという記帳を行う。これによって銀行の貸出が預金が創造されることになる。つまり、次のような場合である。

まず、A銀行は、X社に100万円を貸し出す。
次に、X社は、Y社に100万円を支払う。
そして、Y社は、B銀行に100万円を預ける。
更に、B銀行は、100万円のうち90万円をZ社に貸し出す。
続いて、Z社は、90万円をC銀行に預ける。

この結果、預金の総額は190万円となる。この過程を繰り返してゆくと預金の合計は1,000万円となる。これを式で表せば次のようになる。

$$\text{預金合計} = 100 + 90 + 81 + \dots = 100 \times (1 \div 0.1) = 1,000$$

ここで0.1の支払準備、つまり預金の10%の制約を受けるが、預金の合計は当初の預金の10倍となる。この当初の預金を本源的預金、それ以降の預金を派生預金と呼ぶ。なお、実際には、支払準備は中央銀行への預金準備金と現金資産の両方を含める。この機能から、銀行制度は社会に多くの預金を作り出すことが出来る。

為替業務

銀行は預金、貸出の他、固有の業務として為替業務を行っている。為替業務とは、手形、小切手、振り込みや送金によって遠隔地の債権者と債務者の間の決済を行う業務である。また、銀行は付随業務として様々な代金の支払い、受け取りの代理業務を行っている。例えば、公共料金やクレジットカード、所得税や住民税の支払いを口座からの引き落としで行うこと、また、給与、年金の自動受け取りなどである。これらの業務を通じて銀行は資金決済機能を持っていると言われる。人々の債権、債務の決済を現金で行うことは、現金の搬送等で非常に手間もかかり危険である。そこで現代では現金の受け渡しを行わず、銀行間の預金を帳簿上、付け替えることで行われる。銀行は中央銀行、つまり日本銀行に当座預金の口座を持っており、銀行間で手形、小切手、振り込みなどの資金の決済を行った結果は日本銀行にある各銀行の当座預金の資金を移し換えることで最終的に処理される。

こうした取引はコンピューター処理によって行われている。これらのコンピュータシステムは、様々なネットワークとなっており、それらが結ばれて多くの金融機関の間での資金決済が出来るようになってきている。例えば、現金については、ATMのオンライン提携が行われており、MICSと呼ばれるシステムで結ばれている。また、手形、小切手については手形交換制度がある。振り込み、送金については全銀システムとよばれる制度で行われている。このような銀行の決済業務によって、現金による決済の負担が回避されているのであり、現代では支払決済システムが経済の活動に不可欠のものとなっている。このシステムに不具合があり稼働が中断することは社会に極めて大きな影響を与えるため、その安定性と信頼性を維持することが重要な課題となっている。また、この資金決済機能は先述の信用創造機能の前提ともなっている。人々が現金で多くの資金を所有し、銀行システムに資金を預けることがなければ信用創造は起こらない。

.....

凡例	日本語能力試験・級外	…	【見本】	1級	…	【見本】
	2級	…	【見本】	3級	…	【見本】
				4級	…	【見本】

第1章の語彙調査の統計結果は以下である（【表2】参照）。

【表2】 第1章レベル別語彙の内訳 単語レベル: ★★★★★ 難しい

総数	語彙総数	級外	1級	2級	3級	4級	その他
1741	1,458	126	178	278	140	736	283
119.4%	100.0%	8.6%	12.2%	19.1%	9.6%	50.5%	19.4%
(373)	(350)	(64)	(51)	(120)	(43)	(72)	(23)
(106.6%)	(100.0%)	(18.3%)	(14.6%)	(34.3%)	(12.3%)	(20.6%)	(6.6%)

() は異なり語数とその%

表2は reading tutor の語彙チェッカーをもとに筆者が作成

単語のレベルは他の章と同様、最も難しいとされる5★である。語彙総数1,458、級外(日本語能力試験1級～4級以外)は8.6% (126)、1級は12.2% (178)、2級は19.1% (278)、3級9.6% (140)、4級50.5% (736)である。その他は19.4% (283)で、句読点、数字、アルファベットなどである。内、異なり語数は350、内訳は級外64、1級51、2級120、3級43、4級72である。異なり語数から同じ語彙を級外では半数、1級では2 / 3以上繰り返し使用していることになり、習得の負担もそれぞれ1 / 2、2 / 3となるが、それでも異なり語数の割合は級外、1級合わせて32.9%と3割をこえており、難易度は極めて高い。本学の留学生にとって理解困難な語彙は、主として級外、1級の語彙であるので、次節以降、これらのレベルの語彙、表現における、頻度、専門性、アカデミックな表現、文型について取り上げる。

2-3-2. 級外の語彙の頻度及び専門性

まず、級外の語を頻度数順に【表3】にまとめた。

【表3】 級外の語彙頻度数別一覧

頻度数	語彙
126	
10	～によって、決済
7	仲介
5	手形、証券
4	～に対して、有価、貸し出す
3	当座、口座、多く
2	～による、回避、こうした、債券、元本、先述、～を通じて、作り出す、次に、総額、振り込み、当初、債権、債務、人々、日本銀行
1	一方で、原資、焼失、といった、わが国、金利、下落、デフレーション、依然として、～により、そうした、強固、財務、国際、プロセス、上記、借入、順次、入金、記帳、本源、派生、遠隔、付随、クレジットカード、引き落とし、年金、搬送、受け渡し、帳簿、付け替える、振込む、ネットワーク、それら、不具合、稼働

使用頻度の高い語彙はその章でのキーワードと考えられる。第1章では、機能語の「～によって」を除いた内容語で、5回以上使用されている「決済」、「仲介」、「手形」、「証券」などがキーワードと考えられる。特に「仲介」は1級の語彙「資金」、2級の語彙「機能」と「資金仲介機能」という複合語を作り、この章でタイトルとして用いられ、重要な語である。

また、級外には、『銀行論』で特徴的に使用されられると思われる専門語が多いことが分かる。以下『銀行論』で、特徴的に使用されられるものを挙げる。

『銀行論』で、特徴的に使用されられる語彙(級外)

決済、仲介、手形、証券、有価、貸し出す、当座、口座、債券、元本、総額、振り込み、債権、債務、日本銀行、原資、金利、下落、デフレーション、財務、借入、入金、記帳、本源、クレジットカード、引き落とし、年金、受け渡し、帳簿、付け替える、振込む

これらの語彙には、「口座」、「振り込み」、「入金」、「記帳」、「クレジットカード」、「引き落とし」、「振込む」、など留学生が日常的に使用するものもある。しかし、他の語彙は専門性が高く、これらは留学生のこれまでの日本語環境であまり使用されていないと思われる語彙で、留学生にとって最も理解困難なものである。

2-3-3. 1級の語彙の頻度及び専門性

次に1級の語彙を頻度順に表4に示す。5回以上用いられている頻度の高い語彙は、「預金」、「資金」、「業務」、「受け入れる」、「提供」、「創造」、「システム」、「おる」である。うち「創造」は「信用」、「機能」という2級の語彙とともに用いられ、複合語「信用創造機能」という語彙となり、「資金仲介機能」とともに第1章のサブタイトルであり、重要な語彙である。このように1級の語彙のなかには、それ自体が級外の語彙ほど専門性は高くないものの、複合語となり非常に専門性が高くなる語彙もある。

【表4】 1級の語彙頻度数別一覧

頻度数	語彙
178	
50	預金
21	資金
10	業務
8	受け入れる
7	提供
6	創造、システム
5	おる
4	小切手、利子、投資、受け入れ
3	貯蓄、運用
2	保管、株式、収益、主体、貨幣、送金
1	負う、設置、極端、政策、取扱、限定、バンク、保険、果たす、減少、黒字、赤字、例、返済、発生、仕組み、確保、～先、制約、資産、固有、所得、取引、オンライン、提携、不可欠、中断、極めて、課題、前提、所有

また、『銀行論』で特徴的に使用されられると思われる語彙は以下である。

『銀行論』で特徴的に使用されられる語彙(1級)

預金、資金、業務、小切手、利子、投資、貯蓄、運用、保管、株式、収益、貨幣、送金、バンク、保険、減少、黒字、赤字、返済、資産、所得、取引、オンライン

これらも、級外の語彙ほどではないにしろ、留学生が現在までの日本語環境で使用していた語彙は少ないと思われる、難易度は高い。

級外、1級の語彙はこのように『銀行論』特有の語彙が多く、読解の妨げとなりやすい。留学生には使用頻度の高い語彙、『銀行論』に特徴的に使用される語彙を優先的に教えていく必要がある。

2-3-4. 1章に使用されている助詞相当語

さらに『銀行論』だけでなく、大学の教科書に頻出するようなアカデミックな語彙も多い。助詞相当語はその典型的なものである。1章で使用されていた級外、1級の助詞相当語は以下である。

～によって(～により、～による)、～に対して、を通して

助詞相当語は機能語であるので、以下、文脈のなかで、その用法をみていきたい。

これらはいずれも中級以降の授業のなかで学習するものである。多義語であるため、適切な意味を文脈のなかから選択しなければならない。以下、友松(2010)を参考に個々にその用法をみていく。

「～によって」、「～により」、「～による」という表現は受け身の動作主、原因・理由、手段、関連・対応の4つの意味を持つ助詞相当語である。文1)～4)の①～②は手段、③～④は原因・理由である。文5)⑤の「～に対して」は、本文では「～に」と同様、「何に向かってそうするか、そう感じるか」を言うとき、その直接の相手や対象を示すが、もうひとつ対比の意味もある。文6)⑥の「～を通じて」は、本文では「～を媒介として」という意味だが、もうひとつ「～の間ずっと」という意味もある。

これらの機能語、多義語が使用されている文を学習者に理解させるには、実際の教科書で使用されている文を提示し、その適する意味を考えさせることが必要である。

1) **こうした取引**はコンピューター**処理①によって**行われている。

2) このような銀行の**決済業務によって**、現金**②による決済**の負担が**回避**されているのであり、現代では**支払決済システム**が経済の活動に**不可欠**のものとなっている。

3) この**元本**と**利子**が保証されるという**預金の受け入れ**は、銀行法等**③により**銀行等の**預金取扱金融機関**だけに**限定**されており、それ以外の者が**預金を受け入れる**事は禁止されている。

4) 例えば、**個人**や**企業**が自らの手で現金を**保管**するならば、**火災④による焼失**や**盗難**の危険を常に**負う**ことになる。

5) 銀行の**資金仲介**機能とは、**資金**の余る者**⑤に対して貯蓄**手段を**提供**し、**一方**で**資金**の不足する者に**資金**の供給を行う機能を言う。

6) 銀行は、**資金**が余っている**黒字主体**から**資金**が不足している**赤字主体**へと**資金**を**仲介**し

ているだけでなく、その**仲介機能⑥を通じて預金**を新たに作り出している。

2-3-5. 新しい語彙を導入する教科書に特徴的な文型、表現

新しい知識、語彙を導入することが教科書の役割なので、特に1、2級の語彙には説明があることが多い。従って新しい語彙を導入するのに特徴的な文型、表現を習得できれば、読解力は向上すると思われる。以下、その新しい知識、語彙の導入に特徴的な表現をみていく。これらは、談話構造に関わってくるので、談話のなかで考察をする。

新しい知識・語彙の説明の役割をもつ談話構造をみると、最初に新出語彙を導入して、その後、詳しい説明をするタイプと、まず詳しい説明をし、後にまとめる2つのタイプに分かれる。

7)、8)の例はまず、新出語彙を導入して、その後、詳しい説明をするタイプである。

7) 銀行の**資金仲介機能**とは、**資金の余る者に対して貯蓄手段を提供し、一方で資金の不足する者に資金の供給を行う機能**を言う。具体的には**預金を受け入れ、その預金を原資として資金を運用すること**を指す。

「資金仲介機能」という複合語を「～とは、～を言う」という定義を表す文型を用いて導入し、さらに後の文で具体的に説明をしている。

8) 銀行は**預金**、貸出の他、**固有の業務**として**為替業務**を行っている。**為替業務**とは、**手形、小切手、振り込みや送金によって遠隔地の債権者と債務者の間の決済を行う業務**である。

まず、銀行の固有業務の1つとして「為替業務」ということばを導入し、その後、為替業務ということばを改めて「～とは、～である」という定義を表すことばで説明している。

以下9)～12)は、先に語彙に関する詳しい説明をし、後述でまとめている型である。

9) 銀行は、**資金が余っている黒字主体から資金が不足している赤字主体へと資金を仲介**しているだけでなく、その**仲介機能を通じて預金**を新たに作り出している。これを**信用創造**という。例えば、その**プロセスの例**として、次のような場合が考えられる。

「信用創造」という語彙の内容をその前文で説明し、その内容を「これ」で受け、「これを～という」という型で導入している。さらにその後、その例をあげて説明している。

10) この**元本と利子**が保証されるという**預金**の**受け入れ**は、**銀行法等により銀行等の預金取扱金融機関だけに限定されており**、それ以外の者が**預金を受け入れる**事は禁止されてい

凡例	日本語能力試験・級外 …	【見本】	1級 …	【見本】
	2級 …	【見本】	3級 …	【見本】
			4級 …	【見本】

る。英語でバンクと呼ばれる機関は、この預金の受け入れを行う機関を指す。

「～は～を指す」という文型を用いて、前文との結束を表す「この」で前述の内容を受けて、「バンクと呼ばれる機関」を説明している。

11)ここで0.1の支払準備、つまり**預金の10%の制約**を受けるが、**預金の合計は当初の預金の10倍となる。**この**当初の預金を本源的預金**、それ以降の**預金を派生預金**と呼ぶ。

「本源的預金」、「派生預金」という2つの語彙の説明を前文で行い、それを「この」という前文との結束を表す表現を使い、「この～を～と呼ぶ」という文型を用いて、新たに導入にしている。

12)銀行は、**預金者から預金を受け入れることによって**、様々な機能を**提供**している。例えば、**個人や企業が自らの手で現金を保管するならば、火災による焼失や盗難の危険を常に負うことになる。**この危険を**回避**するためには、金庫設備の**設置等の費用**がかかるが、**銀行は現金を受け入れることによって、こうした費用を節約するサービスを提供**している。**すなわち、現金の保管機能の提供である。**

「現金の保管機能」ということばを、前の文で詳しく説明し、その内容を「こうした」という結束をあらわす語で受け、最後に「すなわち」というまとめを表す接続語でまとめている。

以上をまとめると、下記のような文型がある。

- 「～とは、～を言う」
- 「～とは、～である」
- 「これを～という」
- 「～は、～を指す」
- 「この～を～と呼ぶ」
- 「A. すなわちB」

留学生にこれらの語彙、新しい知識を説明する文型を提示すれば、効率よく語彙も覚えられ、かつ読解力もあがると思われる。

2-4. 級外、1級のカタカナ語(外来語)

カタカナ語は意味を示さないので、漢字からある程度意味を推測できる留学生、とりわけ中国人留学生にとって最も苦手なものの一つで、読解の妨げとなりやすい。そこで、『銀行論』15章すべてで使用されているカタカナ語で、級外、1級の語彙を調査した。その結果を【表5】、【表6】に記す。調査の結果、『銀行論』のカタカナ語は1級よりも、級外のものが圧倒的に多く、かつ専門語がほとんどであることが分かった。前節で記したように、多くの専門語には定義、説明、言い換えなどで、以下のように解説がついていることも分かった。

13) そして、**緊急時には、システミック・リスク**を防ぐための**緊急貸出**を行う。これは「最後の**貸し手**」、「**レンダー・オブ・ラスト・リゾート**」と呼ばれる機能である。(2章)

13)では、同格の文型を使用し、「レンダー・オブ・ラスト・リゾート」は「最後の貸し手」という意味であることを示している。

14) **予想インフレ率**は**把握**が困難であったが、現在は**物価連動国債**と**普通国債の利回りの差**である**ブレイク・イーブン・インフレ率**が**予想インフレ率**として用いられる。(4章)

凡例	日本語能力試験・級外 … 「見本」	1級 … 「見本」
	2級 … 「見本」	3級 … 「見本」
		4級 … 「見本」

14)では「AであるB」という文型を用いて、ブレイク・イーブン・インフレ率が「物価連動国債と普通国債の利回りの差」であるとしている。

しかしながら、解説がついておらず、既知のものとして扱われている専門的なカタカナ語も多い。これらのカタカナ語は漢字のように意味を持たないため、意味の推測が難しく、留学生にとって最も理解が困難である。指導の方法としては、カタカナ語の語彙リストなどを事前に提示する必要があると思われる。

【表5】 級外のカタカナ語一覧(網掛けは13)、14)で使用した語)

章	カタカナ語
1章	デフレーション、プロセス、クレジットカード、ネットワーク
2章	スエーデン、ロンバード(型)リース、ローン、オペレーション、コール・レート、オーバーナイト、システミック・リスク、 レンダー・オブ・ラスト・リゾート 、(みずほ)ホールディングス、(三菱東京)ファイナンス、メガバンク、インフレ、ビッグバン インターネット、コンビニエンスストア、ジャパンネット(銀行)、セブン(銀行)
3章	(米)ドル、ユーロ、リスク、シェア、ペイオフ、オプション、スワップ、デリバティブ、インターネットバンキング、コーポレート、バブル、ヒット、ファンド、Jリート、メリット
4章	シフト、バランスシート、プライム・レート、スプレッド、コスト、リスク・プレミアム、 ブレイク・イーブン・インフレ 、ノンバンク、ポートフォリオ、データベース、リレーションシップ、マニュアル、ノンリコース・ローン、ウエイト、コミットメントライン、コミットメントフィー、シンジケート、アレンジャー、プロジェクト・ファイナンス、プライベート、イニシアティブ、アセットベースドレンディング、アドバイス、スコアリング、シップバンキング
5章	オート・テラズ・マシーン、(電子)マネー、キャッシュ・デイスペンサー、オンラインシステム、グロス、リアル・タイム・グロス(決済)、デビットカードサービス、キャッシュカード、サーバー
6章	グラス・スティーガル(法)ディーリング、ブローキング、アームズ・レングス・ルール、ファイアー・ウォール(規制)、ガバナンス、ユニバーサル、デメリット、ブローカー、アンダーライター、セリング、ノウハウ

7章	プレゼンス、ジャパン・プレミアム、シンジケート・ローン、リテール、ホールセール、ランキング、プラザ、クロス・ボーダー、クロス・カレンシー、ヘルシュタット（銀行）、ニューヨーク、サブ、ドイツ、（東南）アジア、コルレス（契約）、デポジットリー・バンク
8章	キャッシュフロー、オーバー・ザ・カウンター、ヘッジ、デフォルト、アービトラージャー、スペキュレーター、コールオプション、プット・オプション、アメリカン・タイプ、ヨーロピアン・タイプ、プロテクティブ・プット、インパクトローン、カウンター・パーティー・リスク、プレーン・バニラ、スワップハウス、クレジット・デフォルト・スワップ、プロテクション、バーゼル（銀行）、ガイドライン、バリュエーション・リスク
9章	モーゲージ、オリジネーター、オリジネーション、プリーイング、サービサー、フラット、ローン・パーティシペーション、ツール、スキーム
10章	ライフサイクル、ファイナンシャル・プランナー、日本ダイナースクラブ、セールス、スキミング、リボルビング、アマ
11章	メインバンク、モニタリング、スコア、ビジネスローン、リテールバンキング、ビジネスマッチング、デット・デット・スワップ、デット・エクイティ・スワップ、コベナント、プライベート・ファイナンス・イニシアティブ、リレーションバンキング、ニーズ、マーチャント・バンク、インベストメント・バンク、コンサルティング・バンク、サポート、トレーディング・バンク
12章	ミニ（店舗）、フルバンキング、コンプライアンス、コンプライアンス・オフィサー、プライベートバンキング、セキュリティ、コールセンター、テレホンバンキング、グローバル（化）、プライス
13章	リーマン・ショック、リターン、オーバー・バンキング、シンケート・ローン、テラー、ローコスト、クリアー、オペレーショナル・リスク、カントリー・リスク、システム・リスク、アセット・ライアビリティ・マネジメント、コンティンジェンシー・プラン、ワンストップ・ショッピング、リスクヘッジ、コングロマリット、シナジー（効果）、グループ・バンキング、コーポレート・ソーシャル・レスポンス・シビリティ、ステークホルダー、インフラ、マネーロンダリング
14章	バーゼルⅢ、バーゼルⅠ、バーゼルⅡ、ティアⅠ、リスク・ウエイト、リスク・アセット、（保全）バッファー、カウンターシクリカル、レバレッジ
15章	ディーラー、ゼネコン、レディーメイド、アンバンドリング、ライフプランニーズ、パーソナル

【表6】 1級のカタカナ語一覧

章	カタカナ語
1章	バンク、オンライン、システム
2章	コントロール、
3章	カタカナ語なし
4章	ベース、ポイント
5章	新出語なし
6章	ルール
7章	新出語なし
8章	ポジション、ロス・カット・ルール
9章	新出語なし
10章	トラブル、アプローチ
11章	新出語なし
12章	新出語なし
13章	ショック
14章	新出語なし
15章	新出語なし

3. 総括

留学生にとって、いかに大学の授業を受けることが困難であるのかということが、語彙面、表現の面から明らかにされた。語彙、表現の効率的な指導が必要だと思われる。

ただし、留学生には教科書を理解させるのに、すべての新出語を教える必要はない。内容理解に重要だと思われる語で、しかも推測困難なものにつき、事前の指導が必要となる。内容理解に必要でも推測が可能なものは、実際の言語使用に即し、学生自身に推測させることが自律的学習として重要である。

読解にはボトムアップ、トップダウンという2つの過程があると言われている(国際交流基金、2006)。ボトムアップとは小さな単位(文字)などから、少しずつ大きな単位への解読を進める過程、トップダウンとは、まず、最初に読む目的や、読み手に予測、推測があって、文章を読みながら、予測、推測が正しいかどうか確認しながら読み進めていく過程である。読解は2つのモデルを相互に交流させることによってなされると言われている。中国の学生は専門教科に関する知識がない場合、トップダウンは使用できにくいだが、少なくとも漢字が使用されていれば、文字から解読するボトムアップを使用することができる。

語彙の中でも文型にかかわる助詞相当語のような多義語の機能語は、漢字からの推測が困難な面があり、文脈の中で、実際の授業内容に合わせた例文を提示することが授業理解に役立つと思われる。また、語彙を説明するための文型を指導することで、新しい語彙の理解力もあがるとと思われる。さらにカタカナ語については、文字からの推測が不可能なので、文脈からも意味の推測ができないものは、語彙リストの作成・提示が必要であろう。

本稿では漢字、コロケーションなど、留学生にとって授業を理解する上で困難で、指導が必要なものについてふれることができなかった。実際の教科書作成ではこれらの点も考慮する必要がある。これらを踏まえた上で、本学独自の日本語の教科書作成に取り組みたい。

4. おわりに

大学レベルの留学生が必要な語彙の指導は、専門教育の教員と日本語教員が協同することが必要であるということが指摘され久しい。今回専門教育の教員と日本語教員の協同により、大学の授業を受けるための日本語教育の基礎資料が得られたことは、本学の留学生教育にとって非常に意義のあることと言える。今後も経営、経済、マーケティングなど、本学の基幹となる科目において専門教員と協同の上、本学独自の教科書の語彙、表現、文型、漢字等を調査し、留学生用の日本語教科書を作成したいと考えている。

【参考文献】

- 国際交流基金(2006)日本語教授法シリーズ7『読むことを教える』 ひつじ書房
- 国立国語研究所(1981)『専門語の諸問題』 秀英出版
- 友松悦子他(2010)『改訂版 どんときどう使う 日本語表現文型500』 アルク
- KAWAMURA Yoshiko, KITAMURA Tatsuya and HOBARA Rei. Reading Tutor
<http://language.tiu.ac.jp/> (閲覧日2011年9月、10月)

【注】

ⁱ 国立国語研究所(1981)によると、専門語を規定する2つの見方がある。ひとつは「専門語と一般語とは単語自体べつのものであり、もうひとつは、「この区別は観点の違いによるもので、ふつうの単語でも、観点によって専門語となる」という見方である。本稿では後者の立場で、専門語を『銀行論』に特徴的に用いられると思われる語とする。

ⁱⁱ 本稿で使用した藤波教員作成の『銀行論』の教科書は2011年9月に作成されたもので、今後、校正を経て出版となる段階のものである。したがって、今後内容に加筆、修正が行われることが考えられる。

ⁱⁱⁱ 日本語電子辞書。reading tutorにある「チュウ太の工具箱」には、日本語の勉強をするための4つの道具が入っている。①日日辞書ツール(テキスト内の単語の意味を日本語で説明)、②日英辞書ツール(テキスト内の単語の意味(英訳)と読み方がわかる)、③語彙チェッカー(日本語能力試験(旧)を基準にして単語の難易度を判定する)、④漢字チェッカー(日本語能力試験(旧)を基準にして漢字の難易度を判定する)。本稿の調査では③を使用した。なお、日本語能力試験は2010年より、従来の1級、2級、3級、4級からN1、N2、N3、N4、N5と改められたが、reading tutorはまだ新しいレベルに対応していない。したがって本稿の日本語能力試験のレベルは旧レベルのものである。